設備投資の活性化で需要高まる マシニングセンター

工作機械市場の現状と今後を探る

大和証券企業調査部　アナリスト　宮城　大和

工作機械受注は低水準での推移が続いている。日本工作機械工業会が発表した1月の工作機械受注（確報値）は前年同月比26％減の716億円。これに対し、6月の工作機械受注（確報値）は同12％減の951億円となった。なお、2013年1―6月の累計受注金額は5172億円と前年同期と比べて19％の減少に留まる。円安効果に加え、北米では自動車や航空機、エネルギー産業など幅広い業界で需要が好調に推移している一方、中国の景気減速やスマートフォン（多機能携帯電話）関連設備投資の一服による需要減速や、日本の設備投資マインドの低迷が表れているといえよう。

市場の現状

内需、低調に推移

13年1―6月累計受注の内訳を見ると、内需は前年同期比13％減の1734億円、外需が同21％減の3438億円となった。内需対外需＝3対7の構図にここ数年大きな差は出ていない。

内需を顧客業種別に見ると、自動車は同15％減の531億円、電気機械は同11％減の92億円、一般機械は同19％減の711億円と低調に推移。前年同期比で増加した業種は金属製品や鉄鋼など限定的であった。復興需要などの影響は一部で見受けられるものの、全体としては力強さに欠ける。

外需について見ると、製造業の回帰が進む北米が同14％増の1287億円、欧州も同10％増の656億円と増加したが、東アジアが同47％減の973億円、その他アジアが同36％減の457億円と両地域の落ち込みが響いている。欧州はロシアが好調なことに加え、イタリアなどで底打ちの兆しが出てきている。一方、アジアは中国を中心にスマートフォン関連需要の急激な失速や、11年に起きたタイの洪水後の復興需要からの反動減により大幅なマイナスとなった。

市場見通し

緩やかな回復へ

工作機械受注の見通しについて、大和証券では13年が前年比11％減の1兆810億円、14年が同8％増の1兆1710億円（いずれも暦年ベース）とし、13年後半以降、緩やかに回復に向かうと見込んでいる。為替は米ドル100円、ユーロ130円を前提としている。ポイントは好調を維持する北米に加え、13年後半以降、日本や欧州でも緩やかな回復に向かうと見込む点である。日本では政府主導の需要喚起も幾許か寄与することで、更新需要が増加に向かうと見込む。アジアなど新興国では、自動化ニーズの高まりなどを背景に14年以降回復を想定する。顧客業種別では自動車向けが中心になると見込んでいる。

内需は13年が前年比7％減の3514億円、14年が同2％増の3670億円と予想。円高是正による国内製造業の収益改善が進みつつある。また今秋に具体的な内容が発表される見込みである政府による設備投資刺激策などを受け、緩やかな回復に向かうと想定される。

一方、外需は13年が同13％減の7297億円、14年が同12％増の8140億円と予想。エリア別に見ると、北米は13年が同17％増、14年が同3％増と予想。シェール革命などによる製造業の回帰、長年設備投資を抑制してきた自動車業界の新規投資を背景に、高水準での推移が続く公算である。欧州は13年が同16％増、14年が同9％増と予想。景況感は依然として不透明だが、自動車業界など一部業種では積極的な投資が見込まれること、円安の効果などにより13年に底を打つと見込む。

東アジアは13年が同39％減、14年が同18％増と予想。13年はスマートフォン関連受注の縮小影響が響く。一部の地域では、自動車や金型などを中心に需要が増えつつあるが、全体としてプラスに転じるのは14年以降になると思われる。

より長期的な視点では新興国での需要拡大、先進国での更新需要の回復により、工作機械需要は拡大が続くと期待する。中国では人件費の高騰、人材不足などを背景に、製造業の自動化ニーズは今後も高まると考えられる。

現状30％程度に留まる数値制御（NC）化率の高まりとともに、日系工作機械メーカーのフィールドは拡大すると見込まれる。先進国市場においては、リーマン・ショック前（05年―07年頃）に導入されたロボットや工作機械の更新需要が14年―15年頃から拡大すると見ている。

例えば、自動車産業では新型のエンジンや変速機の導入に伴い、設備の刷新が進もう。

国内需要の喚起

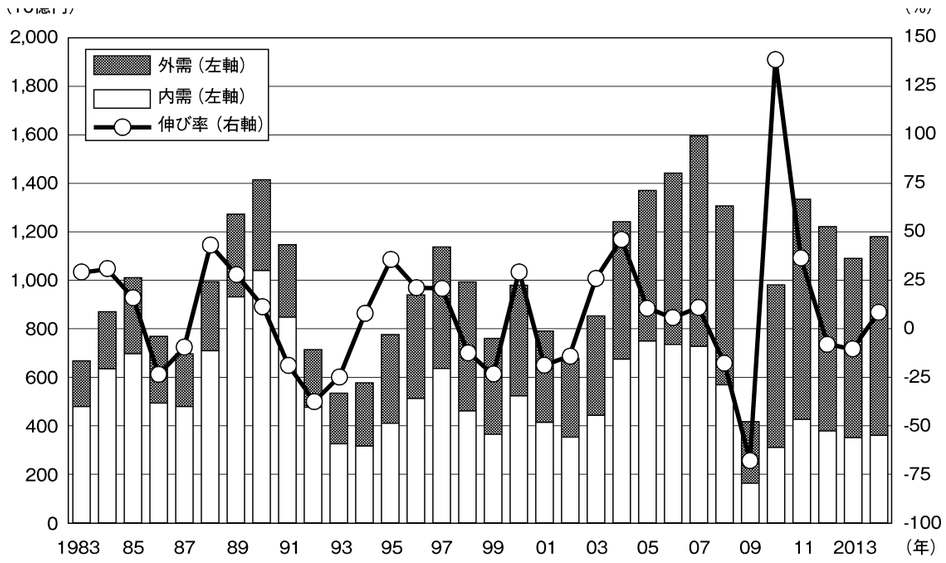
優遇策が不可欠

安倍政権の成長戦略の一つが民間設備投資の活性化である。主な内容は優遇税制の導入などにより、民間設備投資（名目ベース）を12年度の63兆円からリーマン・ショック前の水準に匹敵する70兆円水準へ回復させるというもので、今秋に法案が提出される予定である。

工作機械は設備投資の代表例。現在の工作機械の国内受注は06年のピーク7470億円に対し、12年が3760億円とほぼ半分の水準にあり、ピーク対比では厳しく抑制された状況にある。また先般、経済産業省が発表した「生産設備保有期間実態調査」に基づくと、工作機械のビンテージは10年以上のものが約70％を占めており、設備の老朽化が懸念されている。したがって、円安による企業収益の改善や政府による優遇税制などにより、国内需要は増加に向かう可能性が高い。

ただし、過去のピークへ回帰していくといった過度な期待は抱くべきではないと捉えている。その背景は、最大需要家である自動車業界などの国内需要増加が想定し難いことや、これまでも優遇税制（グリーン投資減税など）を導入し、更新需要を促してきたことである。したがって、本格的に製造業の国内設備投資を活性化させるために、これまでにない規模での優遇策や、自動車や電気製品の需要を喚起し、工作機械ユーザーの仕事量増加につなげる施策の導入が不可欠だと考えられる。

工作機械の年度別累計受注



（12年までは日本工作機械工業会調べ、13年以降は大和証券の予測）

OKUMA

Intelligent Technology

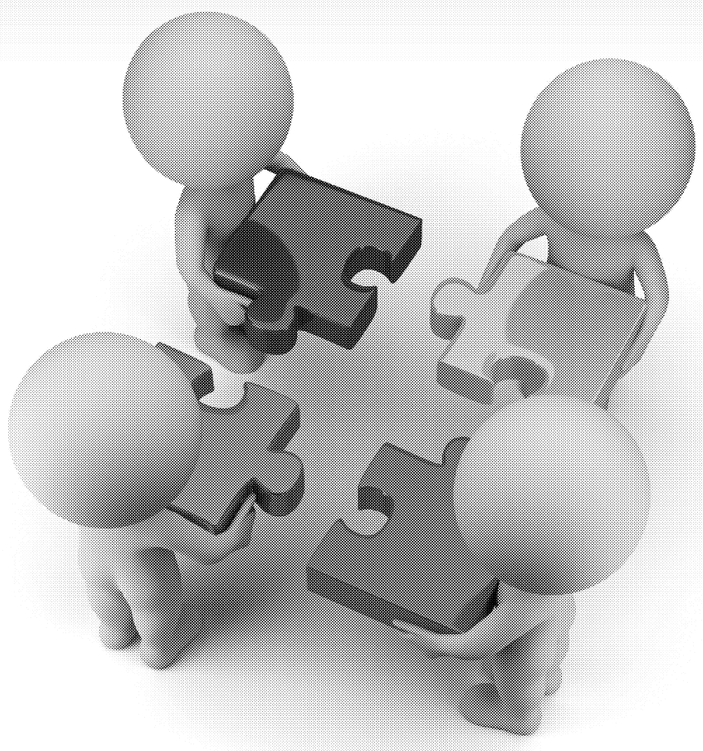
個性派ぞろいの強力な“知能化技術”を人にやさしくつなげる

オークマのプレミアムデザイン

もっと 高精度に

ミクロン単位の精度と高生産性を両立させる
サーモフレンドリーコンセプト
機械を素直に変形させ、熱変位を予測可能な状態とする“機械設計”と、なくすことの出来ない熱変位を正確に制御する“制御技術”の融合で実現しました。

誰でも、早く、簡単にチューニング
ファイブチューニング
タッチプローブと基準球を使って『幾何誤差』を計測し、補正制御を行うことで、5軸機の運動精度をチューニングします。



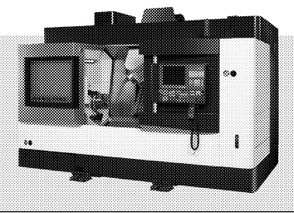
もっと 使いやすく

衝突から機械を守る
アンチクラッシュシステム
「手動運転でも衝突を未然に防止する」機能を世界で初めて実現しました。
大きな特徴は、衝突が発生する寸前まで減速しないこと。どなたでも加工に集中できます。

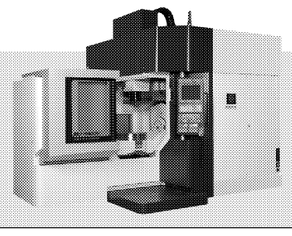
工具寿命が延び、加工時間を短縮できる
加工ナビ
加工の状態を“見える化”することで簡単に、機械と工具の能力を最大限に引き出すことができます。

かんたん操作・新CNC装置
OSP-P300
工作機械メーカが作るCNCだから実現できた「かんたん操作」。
作業手順を徹底的に研究して、オペレータの意思に沿ったスムーズな操作手順を実現しました。初心者でも迷うことなく工作機械が操作できます。

Premium Designing



インテリジェント複合加工機
MULTUS B300Ⅱ
2012年機械工業デザイン賞最優秀賞・経済産業大臣賞 受賞



5軸制御立形マシニングセンタ
UNIVERSAL CENTER
MU-6300V
2012年十大新製品賞 受賞

オークマ株式会社
〒480-0193　愛知県丹羽郡大口町下小口5-25-1　TEL 0587-95-7823　FAX 0587-95-4091営業部
●支　店／北関東　048-720-1411・東京　046-229-1025・名古屋 0587-95-0911・大阪 06-6339-9081
●営業所／山形　仙台　郡山　日立　新潟　太田　東京　三島　浜松　安城　長野　金沢　京滋　明石　岡山　広島　高松　九州

オークマの知能化技術　検索
http://www.okuma.co.jp/onlyone/index.html